

御田扇（おたおうぎ）祭り

「御田扇祭り」は、地元の人からは「おおぎさん」として親しまれ、五穀豊穡を約束してくれる祭りとして信仰されている。この正式な名称は「皇大神宮御田扇祭」と言い伊勢神宮の御田植神事に稲の虫除けとして槍（ひのき）製の大きな扇が使われたことから、この神事を「御田扇」と言っている。これに因んで神宮で「御田扇」が作られたので、岡崎藩の各手永（地域割）が請けてきて、田植えが終わると神輿に納め、手永内の各村々を順に回して、村が稲の虫害から守られ、豊穡な作物が得られることを願ったことから現在に伝えられている。

岡崎藩主に水野忠善が就任した後の1647（正保4）年に、領内を数十か村ずつ組み合わせて、「手永」と呼ばれる行政区画を作った。そして、それぞれの手永に1人ずつ「大庄屋」をおいて手永の村々を支配させていた。大庄屋は時に世襲される場合もあり、この手永制度は、他の藩にはない岡崎藩の特異なものであった。

藩は、大庄屋として土豪（特定の土地の小豪族）層を優遇した。それは領地内の支配を円滑にするためであった。土豪層には三河一向一揆の際に家康の敵側になり、その後御家人にも復帰せず大地主の地位を確立していた家筋が存在していたので、それを認め任用した。手永は1664（寛文4）年には9手永であったようである。それから6手永となったのは1770（明和7）年以降の本多中務大輔家の藩主時代である。岡崎藩は5万石大名の国であったが、矢作川の管理料として一万石が付加されていて、実際は6万石であった。これを6つの手永に分けていたのである。その6手永は川西手永、山方手永、上野（長瀬）手永、堤通手永、東山中手永、額田手永である。この6手永の区分はその後変更されることなく、明治維新に至るまで続いた。御田扇祭は、岡崎藩の6手永すべてで行われていたが、現在も昔からの形態を継承しているのは市内南部の「堤通手永」と「山方手永」だけである。これらは六ツ美地区に関係するものである。

山方手永は占部用水筋25村で、江戸時代から昭和初期まで盛大に行列が回り、祭事が続けられていた。昭和16年より戦争のため中断したが昭和31年より復活した。昭和61年には15町あったが現在は13町になっている。その13町は、中村→坂左右→野畑→若松→針崎→柱→羽根→井内→下和田→国正→正名→永野→定国で矢印は回り順である。神輿は1年で1つの町から隣の町へ巡幸していくので、13年に1度の割合で御田扇祭りの神輿を迎えることになる。本来の巡幸は1年で全部の村を回っていたようである。

行列の威儀物は、道中を清祓する神職を先頭に御田扇役員⇒町役員⇒御幣⇒赤扇⇒神輿⇒神輿台⇒榊桶（根付）⇒日月旗⇒白扇⇒雪洞⇒花傘⇒梵天⇒各町の白旗（13本）⇒子供神輿⇒交通安全の旗⇒太鼓（音曲）の順で進んで行く。

2009年に幸田町永野神社から定国町素戔鳴神社に13年ぶりに神輿がやってきた。2010年は定国町から、大勢の人が行列を組み、神輿・威儀物などが中村町占部天神社に運ばれた。定国町の氏子による踊りと太鼓が披露されたあと、両町そろって厳かに神事が行われた。2012年は坂左右町に移る。

堤通手永は20町から構成され、その20町は中之郷→上青野→高橋→上合歓木→下合歓木→高落→新村→西浅井→東浅井→安藤→福桶→下三ツ木→上三ツ木→下青野→在家→土井→牧御堂→法性寺→宮地→赤渋で矢印は回り順である。堤通手永は岡崎の手永の中ではもっとも盛大に行われている。毎年7月中旬から下旬の日曜日に行われ、神輿は1年に1つの町を巡回するので、この地区では20年に1度神輿を迎える。平成24年は中之郷から上青野に巡回した。平成28年に下合歓木町（岡崎市）から高落町（西尾市）へ、29年に高落町から新村町へ引き継がれる予定である。

行列の順序は、先導者⇒大麻⇒所役（祭員）⇒白杖⇒高張提灯⇒梵天⇒大幟⇒花笠⇒神職・祭員⇒役員⇒大団扇⇒宮総代・町役職者⇒榊桶⇒唐X⇒御幣⇒御神輿⇒大団扇⇒大花傘⇒小旗（20本）⇒太鼓⇒踊り連中⇒子供神輿⇒子供会役員⇒子供会踊り連⇒屋台⇒救護係⇒記録係の順で進んで行く。



各手永に伝承された御田扇祭は次の様になっている。

手永名	大庄屋名	経緯
川西手永	下佐々木町 太田家	昭和37年に廃止された。それまでは1日に2つの町を回っていた。御神体は、鍬にまねた木の枝と、馬のついた扇である。御鍬祭との関係がある。
上野手永 (長瀬手永)	中園町 岩槻家 その後、 伊与田家	第二次大戦までは、阿弥陀堂（現在の豊田市畝部西町）から、7月中旬頃、1日に1町で1ヶ月ぐらいかけて全町を回っていた。戦後は阿弥陀堂で、この町内だけ回っていた。
額田手永 (北山中手永)	藪田町 神尾家	約70年前から行列はしていない。大庄屋のあった藪田町で、田植えの後に神官と町役員で参る程度である。
東山中手永	洞町 永井家	1ヶ月ぐらいで、全町を回っていた。この形態が御田扇祭の本来の姿かもしれない。しかし、明治の初期からは行われていない。現在は4月中旬の春祭と一緒に行われている。
堤通り手永	中之郷町 長嶋家	巡回順序は、中之郷、上青野、高橋、上合欽木、下合欽木、高落、新村、西浅井、東浅井、安藤、福桶、下三ツ木、上三ツ木、下青野、在家、土井、牧御堂、法性寺、宮地、赤渋（20町）。現在も継承され毎年盛大に行なわれている。
山方手永	六名町 斎藤家	巡回順序は、針崎、柱、羽根、井内、下和田、国正、正名、永野、定国、中村、坂左石、野畑、若松（13町）。1980（昭和55）年頃までは、15町であったが上六名と下六名が辞退し13町になった。毎年7月上旬、盛大に行われ神輿は1年に一つの町を巡回するので、この地域は13年に一度「扇さん」を迎える。

本項は以下の資料を引用している。

[六ツ美南部の歴史・文化を紐解く]

著者 岡崎市立六ツ美南部小学校 高須 亮平
 発行日 2012（平成24）年3月31日 初版発行
 印刷所 ブラザー印刷株式会社

2010（平成22）年に定国町から中村町で行われた山方手永



御田扇祭 素戔嗚神社 20100704



御田扇祭 20100704





御田扇祭 道中 20100704



御田扇祭 占部天神社 20100704



2007（平成19）年に国正町から正名町で行われた山方手永



御田扇祭
山方手永
国正町⇒定国町
20070708



御田扇祭 山方手永 国正町⇒定国町 20070708
正名町の子供たちによる獅子舞

2012（平成24）年に中之郷町から上青野町で行われた堤通手永



2012 堤通手永

2014（平成26）年に高橋町から上合歓木町で行われた堤通手永



2014 堤通手永



2014 堤通手永



2014 堤通手永



2014 堤通手永



2012 堤通手永



2012 堤通手永